

< 参考 > 実態把握のポイント

適切な指導や支援を行うためには、的確な実態把握が重要です。

< 実態把握のための情報等 >

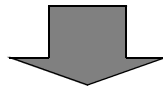
行動観察・行動記録

- ・ 幼児児童生徒の日々の姿から、児童生徒の興味・関心、既習内容と変容を把握
諸検査

- ・ 幼児児童生徒の発達段階や学習のレディネスを把握

保護者の方等からの情報

- ・ 児童生徒や保護者の方の思い、関係機関等からの情報等により教育的ニーズを把握



< 情報を整理する視点 >

幼児児童生徒が示す困難の状況

- ・ 学習面

 - 困難が見られる教科や領域、困難を示す学習課題等

- ・ 行動面

 - 気がかりな行動の様子と、その行動が起こるきっかけとなる状況、教職員の対応への反応等

- ・ 社会面

 - 集団での活動や友達とのかかわりの様子等

幼児児童生徒の長所等

- ・ 興味関心のあること

- ・ よいところ

- ・ 得意なこと

幼児児童生徒の困難の要因や背景

- ・ 幼児児童生徒自身の特性、学校や家庭の環境面、諸検査の結果を踏まえた検討



< 的確な実態把握のための工夫 >

校内委員会等の活用

- ・ 実態把握の内容や方法の検討と、全教職員での共通理解

- ・ 担任だけでなく、校内コーディネーターや特別支援学級担任、教育相談、生徒指導、養護教諭等を含めたメンバーによる実態把握

実態把握のための研修の実施

- ・ 行動観察の観点について

- ・ 諸検査の方法と結果の解釈について

- ・ 保護者の方や外部の専門家、関係機関等との連携の実際について

実態把握の充実については、「支援をつなぐ - 研修編 -」（平成21年3月・山口県教育委員会）を参考にしたり、必要に応じて、地域コーディネーターやふれあい教育センターに相談したりすることができます。

